桜井市　山田
土地改良総合整備事業に伴う

埋蔵文化財調査報告書

昭和62年11月16日
桜井市教育委員会

序　　文

桜井市内の南西端・山田地区には、蘇我倉山田石川麿によって建立された山田寺があり、現在興福寺に残された銅造仏頭の大きさから復元しても、５ｍは超える大仏様が安置されていたことがうかがわれます。また、山田の地は、飛鳥地方と磯城・磐余地方を結ぶ要所であり、現在でも「山田道」の名称が残っています。

このような歴史的に重要な地域ではありますが、周辺は水も道もない狭い段々畑で、住民の強い要望があり、文化財をなるべくさけた形で土地改良を行う計画が立案されました。

これに基いて、桜井市教育委員会は、踏査並びに試掘調査を実施し、工事に際しては立ち合いを行いました。また、周辺の古墳や遺跡の出土品の調査も行いました。本書は、そのいろいろな記録の報告です。

お世話になりました関係者各位に、御礼申し上げると共に、今後とも御協力いただきますよう、お願いいたします。

昭和62年11月16日

桜井市教育委員会
教育長　　外　嶋　尚　春

例　　言

○　本書は、桜井市営山田土地改良総合整備事業に伴う、埋蔵文化財の分布調査並びに発掘調査の報告である。桜井市農林課の依頼を受け桜井市教育委員会が実施した。

○　調査は、桜井市教育委員会・社会教育課技師・清水真一が担当し、草原孝典（現岡山市教育委員会文化財技師）と家納佳江が主に従事した。

○　本書の作成は、草原が担当し、清水が協力をした。執筆は１・２を清水が、３・４と付載を草原が分担した。測図・現地写真は草原が、トレース・遺物写真は清水が分担した。

○　本書を作成するにあたり、桜井市農林課はもちろん、山田区長（松井孝次氏）をはじめ多くの方々にお世話になった。特に、周辺遺物の掲載に際して、高瀬雅よ氏・山本忠雄氏の御協力を得たことを感謝したい。

目　　次

序文・例言
目　　次
第1章　はじめに …… 1頁
第2章　遺跡周辺の環境 …… 1頁
第3章　発掘調査の結果 …… 3頁
第4章　まとめ …… 3頁
付　載　石堂山1号墳及び安倍小学校出土の土器 …… 6頁

挿図目次

挿図1　遺跡分布図 …… 2頁
挿図2　坊ノ尾地区試掘トレンチ及地形図 …… 4頁
挿図3　トレンチ平・断面図 …… 5頁
挿図4　石堂山1号墳・安倍小学校敷地出土遺物 …… 7頁

図版目次

図版1　発掘調査写真 …… 8頁
図版2　石堂山1号墳・安倍小学校敷地出土遺物写真 …… 9頁

山田地区　区画整理地遠景（南から）

桜井市山田・土地改良総合整備事業に伴う埋蔵文化財調査報告書

第1章　はじめに

桜井市山田の北東部部分の丘陵地を、土地改良総合整備事業により、区画する計画が立てられ、昭和59年8月1日付けで桜井市農林課から、市教育委員会経由で、奈良県教育委員会に埋蔵文化財分布踏査願が提出された。県教委の依頼により、市教委・社会教育課で数度の踏査を行った結果、古墳状隆起地点2ヶ所・瓦器散布地点1ヶ所が発見された。また、地元区長をはじめとする古老に対する聞き取り調査でも、古墳状隆起地点1ヶ所（坊ノ尾地区）が昔から墓と伝わっているだけで、他の地点からの土器や墳墓の存在等は聞き出せなかった。

この結果に基づいて農林課は、古墳状隆起地点2ヶ所は発掘調査を、散布地は吉野川分水路のすぐ横のため、土盛り保存を決め、市教委に調査を依頼した。昭和60年3月、古墳状隆起地点の1つである坊ノ尾地点の発掘調査を実施した。また、昭和62年8月、もう1ヶ所の小川地点を樹木伐採したところ、地形は隆起しておらず、ユンボによる試掘でもすぐ地山があらわれた。

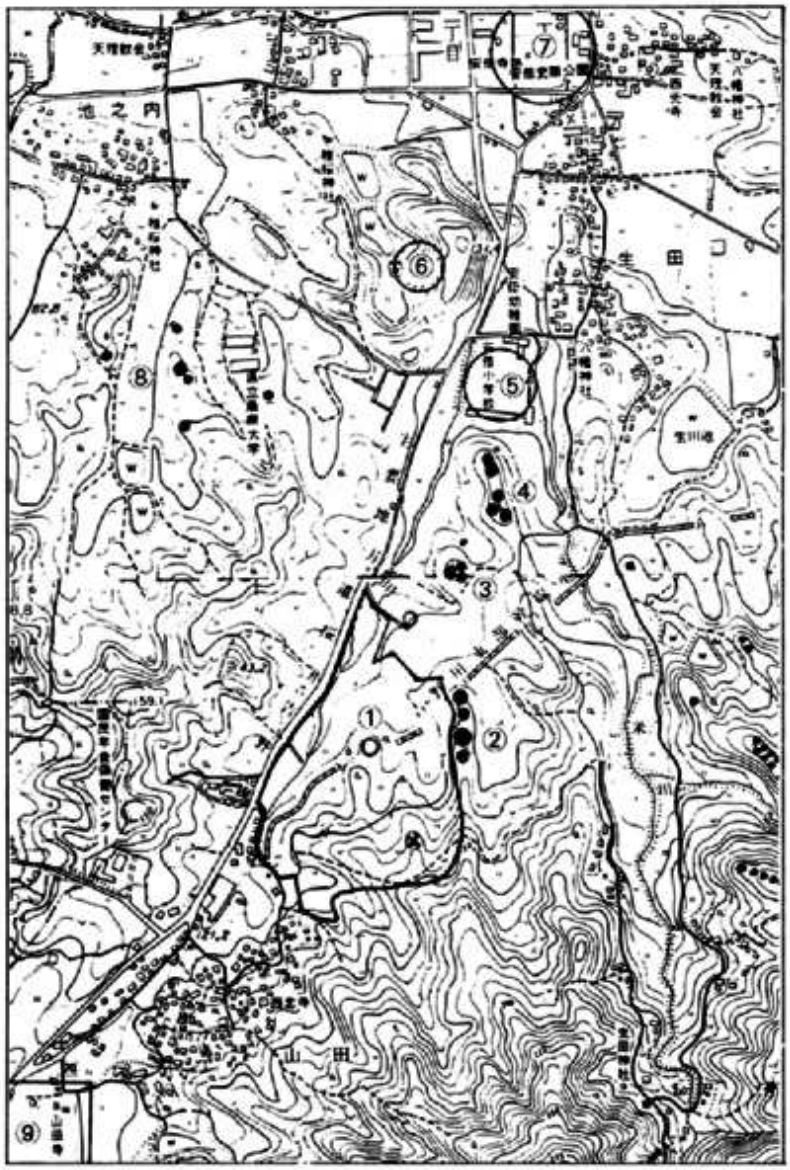
第2章　遺跡周辺の環境

桜井市山田は、蘇我倉山田石川麿の建立で名高い山田寺の所在地として有名な所である。また、飛鳥時代には、飛鳥から東国を結ぶ幹線道路の出入口として「山田道」が存在し、上ツ道や伊勢街道から飛鳥の都に入る人々の行列でにぎわったと推定される地域である。中世の多武峯・談山神社と、奈良・興福寺との勢力争いの際に、興福寺によって、多武峯麓下の山田寺が攻撃され、銅造大仏が持ち出される事件の舞台にもなった場所である。山田寺の第5次にわたる発掘調査は、国立奈良文化財研究所によって実施され、多くの貴重な文物が掘り出されている。

南北にはしる山田道の両側は低い丘陵地形で、西側の丘陵北西部には、奈良県立農業大学校に先立つ池之内古墳群の発掘調査が、橿原考古学研究所によって実施され、小規模ながらも古墳時代前期の優秀な副葬品が出土したことで注目された。

東側の丘陵上には、数多くの古墳が存在するが、丘陵北側に寄っており、安倍小学校の南の勘定山（かんじょうやま）に5基、その南の石堂山（いしんど）にも3基、今回の対象地の東側の戒場様の丘陵上にも4基の古墳が作られている。石堂山と戒場様には横穴式石室があり、後期の群集墳であろう。石堂山は、地主の生田・高瀬家に出土遺物が保管されている。

古墳時代よりも古い遺構・遺物については不明な点が多いが、安倍小学校の造成工事（昭和40年頃）の際に出土した弥生土器（把手付の水差形壺）が1個、生田・山本家に保管されている。



1. 坊ノ尾地点
2. 戒場様古墳群
3. 石堂山古墳群
4. 勘定山古墳群
5. 安倍小学校敷地
6. 青木廃寺
7. 安倍寺跡
8. 池ノ内古墳群
9. 山田寺跡

挿図1. 遺跡分布図

第３章　発掘調査の結果

坊ノ尾地区の発掘調査は、昭和60年３月10日から30日までの20日間にかけて、桜井市教育委員会が実施した。

古墳と推定された高まりに、東西に幅２ｍ・長さ12.5ｍ、南北に幅２ｍ・長さ14.5ｍのトレンチを入れてみた。

(1)　層序（挿図３）

トレンチ壁面の観察から、坊ノ尾遺跡の層位は、基本的に上下２層に分けることができる。即ち上層は暗茶褐色土、下層は橙褐色土である。上層は、近年まで畑として使われていた耕作土で、下層はそれ以前の耕作土と考えられる。また、ベースは黄褐色土に若干小礫の入る、堅緻な土層である。

(2)　遺構（挿図３）

遺構は、それぞれの層から掘り込まれたピット数個を段状に、地山を削り出したものがある。

遺物が全く検出されないため、それらの性格については明確にできないが、比較的深いピットについては、山芋などの採集痕、浅いピットで炭の入るものは、焚火の痕跡のようなものと推定される。

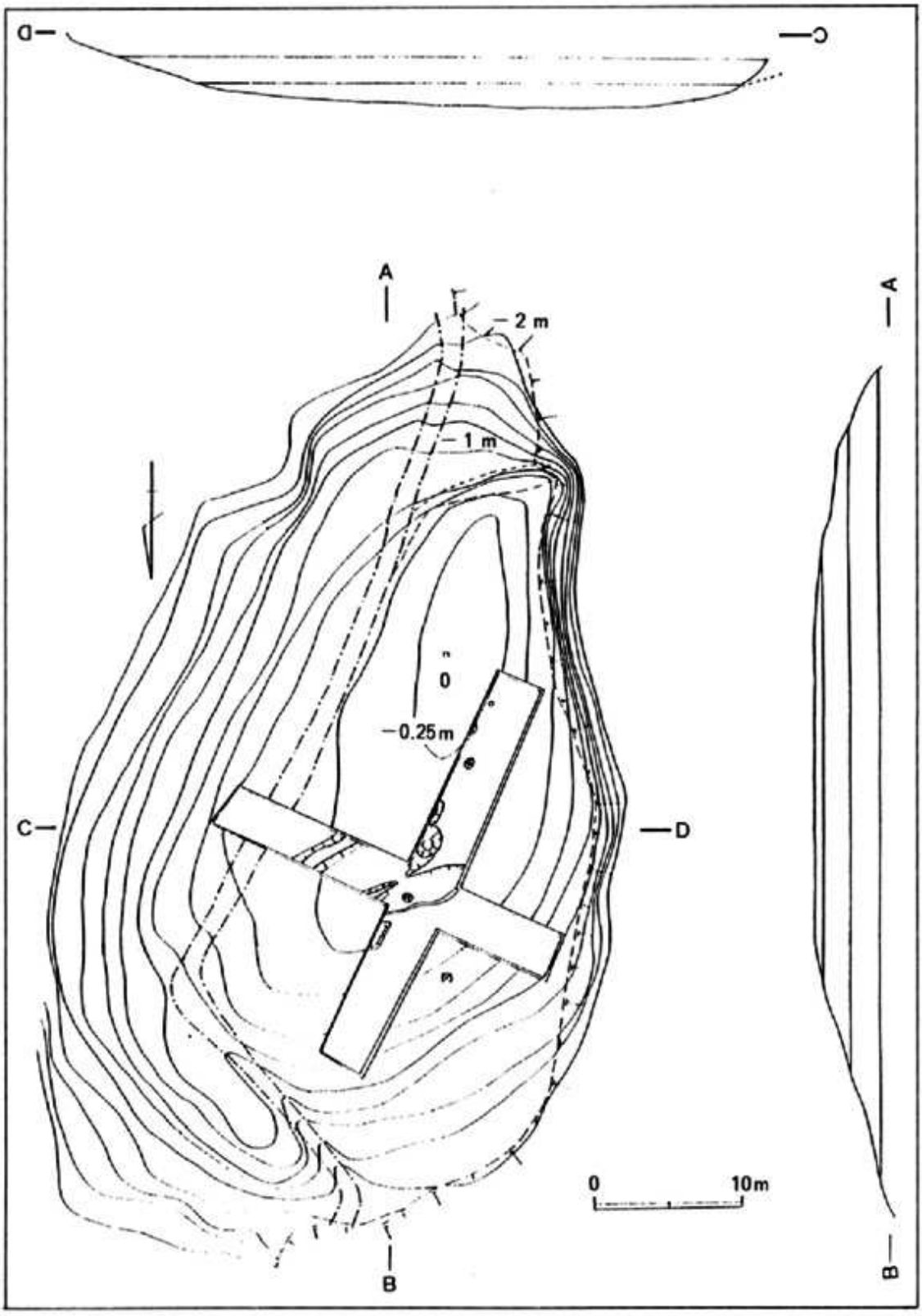
段状遺構については、その遺構のほぼ同じ位置に現在の道があることや、段の方向が道の方向と併行していることから、道の痕跡と考えられる。

第４章　ま　と　め

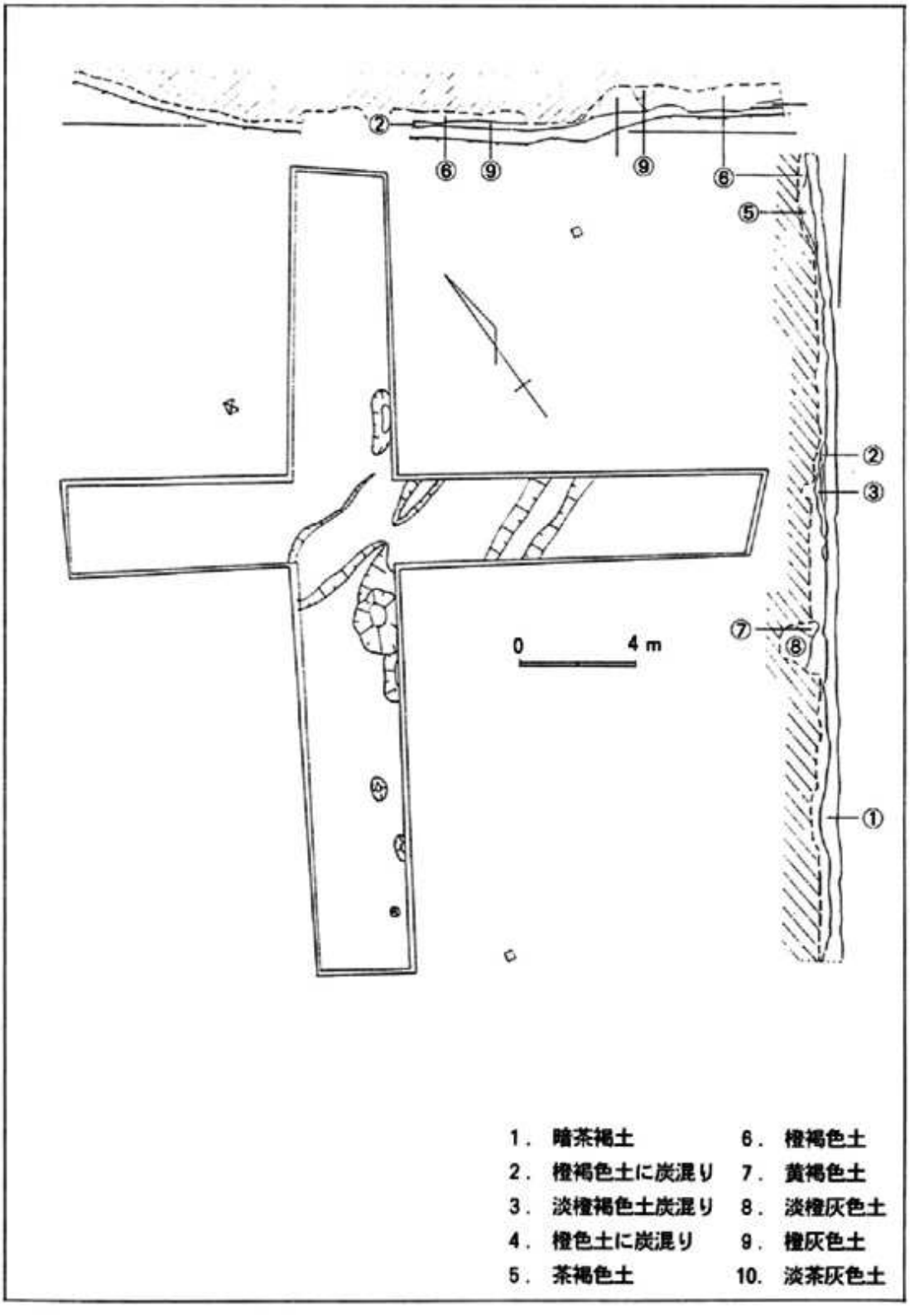
以上の調査結果から、坊ノ尾地区を古墳とするような痕跡は得られなかった。現在まで、耕作されてきた畑地と小径であったと考えられる。

調査参加者名簿

石田敏雄	植田至紀	家納佳江	草原孝典
清水真一	内藤新治	萩原儀征	平岡高雄
増田義雄	松田有司	山本忠雄	



挿図2． 坊ノ尾地区試掘トレンチ及地形図



挿図3. トレンチ平・断面図

付載　石堂山1号墳及び安倍小学校出土の土器

草原孝典

(1) はじめに

石堂山1号墳は、桜井市大字生田小字石堂山の独立丘陵の頂上に位置する。3基ある古墳の西端で最大のものである。本来は、南に開口する無袖式の横穴式石室を持つ円墳（直径10m・高さ3m）であった。石室内部は、盗掘のため、天井石と羨道を失っている。ここでは、石室から出土した土器（地主の高瀬氏保管）の紹介と、古墳の北西200mの安倍小学校造成時に出土した弥生土器を紹介したい。

(2) 遺物

蓋（挿図4－1・図版2－1）　天井部外面½程に粗い回転ヘラ削り調整を施している。口端部は丸く収めている。底部内面中央に不整方向のナデが施されている。口径10.8cm・器高4.2cm。

坏身（挿図4－2・図版2－2）　底部外面ほとんど回転ヘラ削り調整が施されている。底部内面中央に不整方向のナデが施されている。口径11.9cm・器高4.4cm。

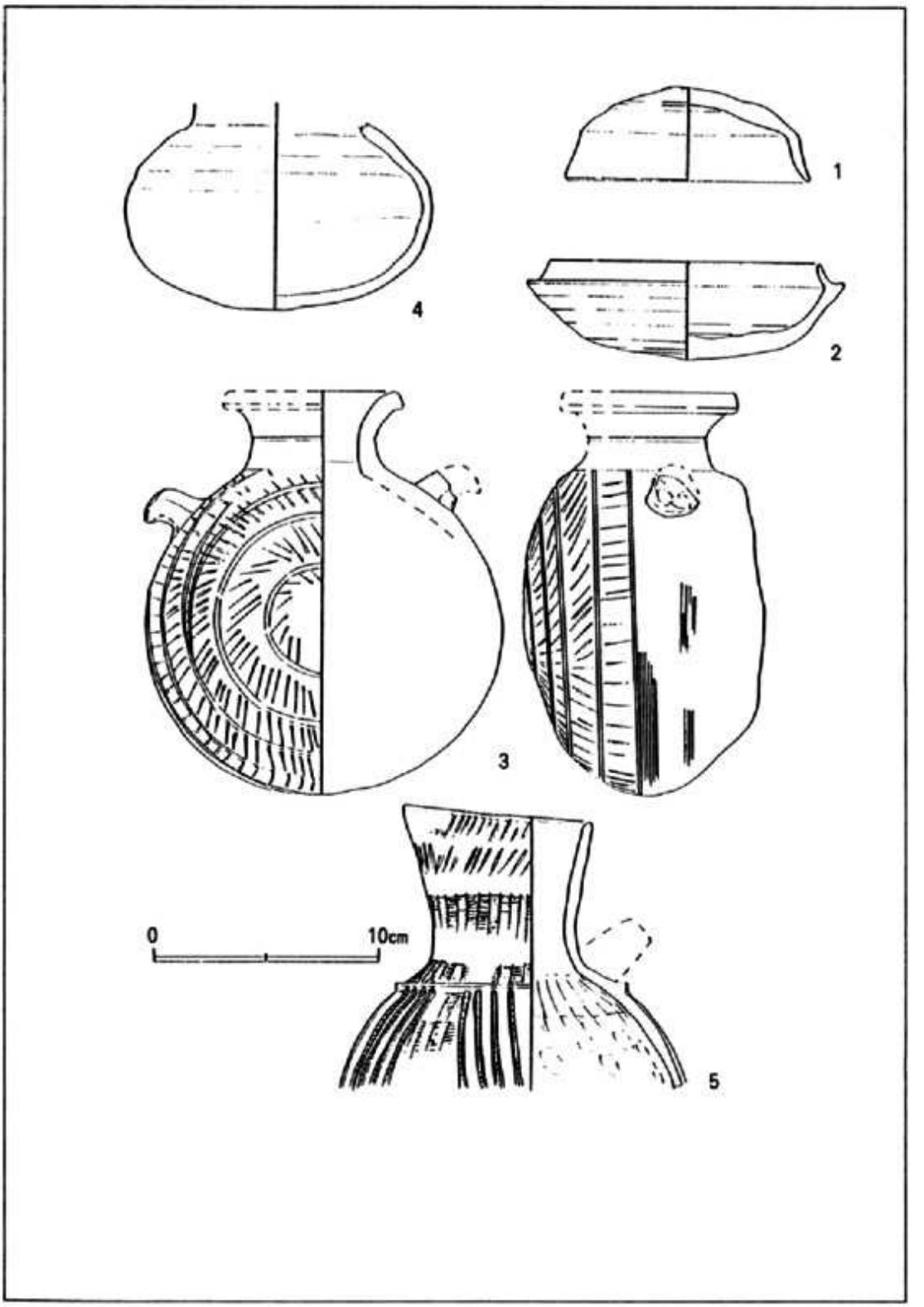
提瓶（挿図4－3・図版2－3）　口縁部と把手の一部が欠損しているが、ほぼ完形である。器表は回転ヘラ削りの後、カキ目調整が施され、さらにその上からナデている。体部前面には同心円状に5条の沈線を施し、その後刺突文を施している。口径7.2cm・器高17.6cm。

土師器壺（挿図4－4・図版2－4）　内外面ともにヨコナデ調整である。色調は明橙灰色で、胎土は緻密である。古墳時代後期の丸底長頸壺の胴部と考えられる。

弥生土器・水差（挿図4－5・図版2－5）　体部下半及び把手部が欠損している。器表は口縁にヘラ状工具による刺突文を、口頸部体部には退化の著しい簾状文を施している。そして、簾状文の上から、細い粘土紐を貼り付けて、さらにその上からヘラ状工具でキザミ目を施している。内面は口縁及び口頸部にはヨコナデ、体部にはユビナデ調整が施される。

(3) まとめ

以上の結果から、石堂山1号墳は、6世紀後半代の年代が、また弥生土器は中期後半であろうが、キザミを施す粘土紐を貼り付けるなど、大和地域では珍しい装飾文様である。



挿図４．　石堂山１号墳・安倍小学校敷地出土遺物

坊ノ尾地点遠景

発掘調査トレンチ

発掘調査地点

石堂山1号墳石室

図版2　石堂山一号墳・安倍小学校敷地出土遺物写真

右上・右　石堂山１号墳出土遺物

左下　　安倍小学校敷地出土遺物

桜井市山田　土地改良総合整備事業
に伴う埋蔵文化財調査報告書

昭和62年11月16日　印　刷
昭和62年12月1日　発　行

発　　行　桜井市教育委員会
〒633 桜井市大字粟殿202
☎ (07444) ⑤0962

印　　刷　小川文洋堂印刷